概　要　報　告

実施期日	８月５日（月）
部会名	中学校　総則部会

神奈川県研究主題

主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善

テーマ

『活用可能な学力を身につけるために

～グループワークの質的な向上をめざして～』

提案概要

提案校では、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善の方法としてグループワークに着目して令和元年度から５年度まで研究を進めてきた。グループワークの有用性を生徒と教員が共に感じ、他者との関わり合いの中で学ぶことを大切にし、授業と日常生活との関連を明確にして、生徒の未来へとつながる学習をめざした。

●「活用可能な学力を身につけるため」の取り組み

①授業キャッチフレーズの設定（生徒に親しみやすく、授業者の意図が伝わるもの）

②「本時のめあて」の設定・掲示（毎時間全ての授業で）
　および指導案における「～させる」表現の撤廃（生徒の能動的な活動を支援）

③校内授業研修会の実施による授業力の向上（付箋による成果と課題の可視化）

④生徒インタビュー（年３回の公開授業の際に、その場ですぐにフィードバック）

⑤校内研修（教員が生徒と同じようにさまざまなグループワークをおこなう）

⑥授業アンケート（年２回）

⑦１人１台端末を活用したグループワークの検証（感染症拡大防止の観点から）

●実践報告

・他教科の視点による新しい気づきや、より良いグループワークの提案ができた。

・グループワークで重要なのは「個人の能力」ではなく、グループ内の他者の能力を活用して学力を獲得していく過程であると考え、協働する場面を盛り込んだ授業を展開した。

・グループワークを活性化させるためには、その集団での「心理的な安全・安心」が重要である。教師の役割は教科指導だけでなく、学校生活のあらゆる場面で人間関係の土壌を育むことが必要である。

・グループワークの形態や取り組む内容、教員側の発問の仕方などが重要な要素になるので、グループワークを行う目的や利点をしっかりと理解した上で行わなければならない。

●成果と課題

生徒のグループワークへの抵抗感は払拭されてきて、他者と学び合うことへの安心感が生まれているが、誤答をすることへの抵抗感はまだ残っている。また、話し手よりも聞き手の存在が大切なので、聞き手の姿勢を確立することも課題である。

研究開始前に提案校の教員がもっていたグループワークの概念は覆され、「心理的安全性」は生徒間のみならず、教員間においても重要であることを改めて実感した。

質疑応答

・指導案で「～させる」表現を使わなくなったことで見られた変化は？

→指導案を作るときの教員の意識が、「教員が 50 分の授業をどうコントロールするか？」ではなく、生徒の活動をメインにおいて考えるようになった。生徒達も自ら考えて動ける場面が増えた。

・グループワークを行う際に、生徒への投げかけ方などで気をつけているポイントは？

→心理的安全性について生徒に理解してもらうため、「グループの中には得意な人も、不得意な人も、いろいろな人がいること」「発言することだけでなく、あいづちや拍手も大事な参加方法であること」「同じ場所を共有することが大切であること」などを伝えるようにしている。

協議の柱及び協議概要

参加者の地区と校種が分かれるように５～６人のグループを作り、自己紹介を兼ねて各自が現状で困っていることを話してから、①「自校で取り組んで効果をあげたグループワークの実践例とその理由」、②「主体的・対話的で深い学びに向けて、学校全体としての取組内容と成果と課題」をテーマにグループワークを行った。

・グループワークのやり方や、どのような情報共有の方法を利用しているかについて情報交換をした。１人１台端末を使いロイロノートや google chat などを活用すると、グループでの話し合い内容などが１画面で全グループを見ることができたり、スピーディーに授業を進めることができたりして便利ではあるが、個々に画面に向かう時間が長くなってしまいがちという欠点もある。より深い学びのためには、内容を共有した後の意見交換の時間をしっかり確保する必要がある。

・ICT が活用されることが多くなっているが、使うことが目標になってしまっていないであろうか。ただ使うだけでなく、この活動が深い学びにつながっているのかどうかという視点を持つ必要がある。アナログの良さとデジタルの良さがそれぞれあるので、目的に合った方法を生徒自身が選択できる力をつけていきたい。

・教師の発問の工夫により、グループワークが話しやすくなるかどうかが決まることもある。教師がしゃべりすぎないようにすることも大切である。

・グループワークでの話し方や聞き方のルールを決めて、共有するようにしている。

・「良いことを言う」ことよりも、「気負わず、ふつうにいろいろなことを言う」ことを大切にしたい。聞く力を身につけられるように、環境を整えていくような学級経営も重要である。

まとめ概要

主体的・対話的で深い学びには、わからないことに自ら向かっていく力を育むことが必要である。提案校の「活用可能な学力を身につけること」を目標とした研究の過程で、グループワークをおこなう上で必要不可欠な「心理的安全性」をどのように培っていくかが重要であるということが浮き彫りになった。

グループワークというと話すことや発信することに主眼が置かれがちであるが、聞くことや共感すること、他の人の意見を要約すること、その良い点に気づくこと、なども自らの学びにつながっていく。このように、一人ひとりが他者と学び合うことに対する安心感をもつことが、主体的に取り組む力を身につける支えとなっていく。